

第2回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

日 時	令和8年2月24日(火) 16時00分～17時00分				会 場		市役所 202 会議室	
委 員	船越 美穂	○	中山 健	○	木部 里美	○	北岡 かや子	○
	鐘井 秀子	○	高橋 茂	○	中尾 麻貴子	○	奥村 美香	○
	木村 友美	○	後藤 未奈子	○	大和 寿美	○		
事務局	(子ども子育て部) 早川部長、(子ども支援課) 姫野係長、(子ども家庭センター) 加地主幹、大森係長、(子ども育成課) 許斐課長、萩野主幹、三吉							

1 あいさつ

子ども子育て部長より開会のあいさつ

2 報告

令和7年度の幼児教育事業について報告

事務局より【資料1】に基づいて説明

- ・幼児教育研究協議会やワーキング会議では、様々な視点で協議を重ねながら、アプローチカリキュラムのフォーマットを完成することができ、市内の園に共有することができた。
- ・保幼認園長会では、男女共同参画推進センター「ゆい」と共催講座を実施した。
助産院院長による、「生命の安全教育～性教育について～」の講義を聞き、性教育について理解を深めることができた。
- ・6月に予定していた福岡教育大学附属幼稚園での第1回保幼小研修会は、感染症のため中止し、毎年11月に開催されている幼児教育公開研究会のオンデマンド視聴を代替研修として実施した。
- ・第3回幼小研修会は、東郷信愛幼稚園で保育参観と意見交換会を実施し、園と小学校が持参したアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを共有しながら、相互理解を深めることができた。
- ・6年ぶりに統一入学説明会を実施することができ、連携・接続の充実につながる取組みを再開することができた。

3 協議

令和8年度幼児教育事業計画(案)について協議

事務局より【資料2】に基づいて説明

○アプローチカリキュラムのフォーマットについて

(事務局)

- ・スタート期の姿が見えると、アプローチカリキュラムを作成しやすいという意見から、他の自治体や参加いただいた園のカリキュラムを参考にし、議論しながら進めていった。

(委員)

- ・幼稚園教育要領が定める5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を関連づけて作成すると、整理がしやすくなるのではないか。
- ・子どもの姿と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の項目が一致していないところがあるので、見直しが必要である。
- ・色々なタイプの園のアプローチカリキュラムを集めると、それぞれの違いが見えてくる。
- ・めざす子ども像によって、スタート期の姿も変わってくるのではないか。

◎スタート期に育つ子どもの姿について

- ・衣服の着脱、始末については、一人ひとりのペースを考慮した上での表現がよいのではないか。
- ・掃除については、掃除をすることの気持ちよさを感じられることが大切に思う。
- ・「上級生とふれ合おうとする」のところは、友達でよいのではないか。
- ・目指す子どもの姿が高いと、子どもに求められることも幅広いと感じた。
- ・家庭との連携の項目は、アプローチカリキュラムにつないでほしい。
- ・毎年アプローチカリキュラムの見直しを行いながら、改善を重ね、よりよい内容になっていくとよい。

○幼児教育研修会に、メンタルケア等の内容を取り入れることになった経緯について

(事務局)

- ・保育士の離職問題がある現状を踏まえ、園長・主任の先生を対象に研修会を予定している。離職の原因は様々であるが、先生方が安心して働き続けられるよう、コミュニケーションやメンタルケア・ラインケアの内容となっている。

○離職における実態や体制、また市への要望について

(委員)

- ・自園の離職率は低いですが、離職の理由の一つには、発達に特化した資格を取りスキルアップをして、発達支援の現場で働かれる先生がいる。
- ・園で心掛けていることは、職員が働きやすい環境づくり。休暇制度の導入、就業規則の見直し、先生の心のケアとして相談する場を設けている。
- ・市への要望として、第三者に相談できる窓口があるとよい。また、年に数回、園にカウンセラーに来てもらえる仕組みがあるとよい。
- ・一人で抱え込まないように、チームで考えられるような体制づくりを心掛けている。
- ・シフト調整を工夫して、ライフステージに合わせた働き方を保障したいと思っている。
- ・園独自で月に1回、職員がカウンセラーに相談できる場を設けている。
- ・カウンセラーによる相談体制を、市に支援してもらえるとよい。
- ・保育士の給与は市町村によって差があり、給与水準の高い地域が就職先として選ばれる傾向がみられる。
- ・園内研修が多いことに加え、時間外勤務やレポート提出などもあり、負担に感じているとの声もある。
- ・保育の楽しさを感じ、明日からの活力につながるような研修をどのように開催していくかが課題である。
- ・小学校では、先生が不足しているのが現状である。
- ・学校が楽しく、心地よく過ごせることが一番だと感じている。

- ・子どもも先生も元気に過ごせ、喜びを感じるにはどうすればよいか。
- ・先生たちが子どもたちと向き合いやすい環境が大切である。
- ・担任任せにせず、チームで一緒に考えていった。
- ・一人の子どもに対して、サポートしてくれる先生は担任以外にもいる。
- ・自分の居場所があると感じられるような環境づくりを心掛けた。
- ・先生同士で、子どもたちのことを語り合い、風通しのよい関係を築いていくことは、一人で抱え込まず、支え合いながら頑張ることにつながる。
- ・令和6年度から、のぞみ園では、市内の園や療育施設の先生を対象に発達に関する内容で勉強会を実施している。児童発達支援事業所の増加に伴い、連携やコミュニケーションを図ることを目的としている。
- ・事例検討を多く取り入れ、先生同士で認識や支援の方向性を確認しながら、課題を共有するとともに、子どもの成長の喜びを分かち合う場となっている。
- ・勉強会が終わった後も、先生同士の交流が見られ、保育の活力になっている。
- ・育休から保育園や小学校に復帰する際には、正規で戻る人が多い。中には復帰後に、心理的に負担になり離職した人もいる。
- ・給与水準等の影響もあり、近隣市町村の園に勤務先を求める保育士が増えている傾向がある。
- ・児童の受け入れを広げていくために、本市における保育士確保は、今後取り組んでいく必要のある課題の一つである。

○令和8年度の幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研修会について

(事務局)

- ・アプローチカリキュラムからスタートカリキュラムに向けて、スタート期のつなぎである子どもの姿を実際に見学したいという要望が多かったため、小学校での研修会を提案した。
- ・例年、福岡教育大学附属幼稚園で実施している研修会は、輪番で実施している幼稚園と認定こども園の中でお願いしたいと考えている。

(委員)

- ・幼稚園教育要領に根差した保育を実践されている福岡教育大学附属幼稚園での研修会をどうつないでいくか。
- ・保幼小研修会の回数を増やすことは先生方の負担を考えると難しい。
- ・附属幼稚園としては、毎年実施されている公開研究会はオンデマンド配信もあるので、ぜひ参加してほしい。園の見学はいつでも可能である。
- ・アプローチカリキュラムが充実してくれば、第2回の講義の研修を、福岡教育大学附属幼稚園で実施していた研修会として復活できるとよい。

(事務局)

- ・令和8年度の計画は、参加者ニーズを把握しながら次のステップに向かうために提案した。毎年内容も見直しを行い、福岡教育大学附属幼稚園の幼児教育の強みをどうすればより活かせるかを考えながら、計画を考えていきたい。

○不登校の課題について

(委員)

- ・不登校児童の中には、フリースクールに楽しんで行っている子がいる。
- ・年長の10月から療育に通い始めたが、その時期では支援級に申し込みなかったため、申込み期限が延長できるようになるとよい。
- ・例年、10月1日付で次年度の入学予定者の人数を確定している。そのため、就学相談の申し込み締め切りが8月になっている。
- ・宗像市では、現在、年15回就学相談を実施している。他市町村に比べると多く、自治体としては熱心に取り組んでいる。それでも就学相談を受けることができないお子さんがいるという現状を、どう救っていくかが課題である。
- ・不登校の年齢が低年齢化し、入学時点で不登校になる子がいるのも現状である。
- ・特別支援学級に通っている子の中に、不登校になる子が多くいる原因が気になる。人員不足も関係しているのではないかな。
- ・就学相談を多く設けていただいているが、十分に対応しきれていない状況もある。
- ・1年生のはじまりが大事なので、就学相談に間に合わせてあげたいと思っているが、よい仕組みはないか。
- ・支援学級と判定されなくても、支援学級の活動を受けることができるようになっている。また、保護者が教室に入ることを認めるなど、給食を教室で無理に食べなくてもよい柔軟な環境が整えられている。

○その他

(委員)

- ・令和7年に福岡県のこども計画が策定されたので、宗像市の幼児教育事業計画との整合性をつけて整理しておくとい。
- ・子育て支援センターを利用される保護者の中には、放課後デイサービスにとっても関心を持って情報を収集している方がいる。また、子育て中の悩みを抱えた保護者にとって、安心して相談できる場となっている。

あいさつ

会長より閉会のあいさつ